

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 くらしの安全・安心部会）

意見交換のテーマ（区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと）	
狹隘道路が多く自転車による事故が多い生野区では、警察と連携し自転車の安全かつ適正な利用について周知・啓発を行っているが、地域でも取り組み可能な自転車マナー向上に向けた方法はないか。	

	ご意見・アドバイス等	委員名
自転車マナー向上に向けて	生野区は一方通行が非常に多く、四つ角・三叉路も多い。4月に自転車の新ルールができるが、まだまだ啓蒙されていないから、行政が率先してやっていただきたい。自転車交通マナーを守っていない人はヘルメットも被っていない。ヘルメット被っているということが、マナー向上の一一番の指標だと思う。	長谷川委員
	生野区内のどのような場所で自転車事故が多いのか、対象者がどの年代なのか、どのような事故のタイプが多いのかという情報を教えていただきたい。ルールやマナーを守るのは非常に重要で、その啓発は必要だと思うが、その事故や場所の特性を生かして、事故を起こりにくくするという方法もあるのかなど考えている。例えば、商店街の中でハロウィンのイベントなんかをやっていて人がいっぱいいるときには自転車事故は起こらない。ならば、公共の道路ではあるが、もうちょっと出っ張ってお店を出してもいいようにするなど、人と物で物理的な障害物が増えれば、高速で走っている自転車の事故というのは起こらなくなるのかなと思う。	中村（一）委員
	eスポーツがオリンピックの競技にもなろうかという中、交通シミュレーションを取り入れてはどうか。実際にイヤホンで音楽を聞いている状態で自転車に乗って小・中学生に体験させる。例えば、交差点から人や車が出てきて、衝突したり、事故に遭うといったことをシミュレーションで体験させるといった取組をしてはどうか。また、家から学校までの実際の通学路を歩くシミュレーション。ここは車が結構通るとか、そういうことを順番にクリアしていく。途中で知らない人に声をかけられたりして、そのときはどうするのかとか。今的小・中学生はゲームなどに慣れているので、そういう感覚でマナーを学んでいくのがいいのではないかと思う。	森口委員
	私の地域では、小学校のグラウンドで、トラック事業者のドライバーさんなどと、トラックの運転席からは子どもたちがどこまで近づくと見えなくなるのかということを体験してもらうというようなイベントをしたことがあり、マナーや法律を学ぶような講習を一般の大入を対象にやらないといけないと思っている。法律（新しい自転車ルール）が4月から施行されるが、交通マナーとは分けて考えた方がいいのではないかと思う。ルールや罰則に関しては行政の方できちんと広報してもらって、違反は厳しく取り締まつもらった方がいいのではないかと思う。そして、例えば駐輪の仕方や、自転車に取り付ける傘ホルダーについてなど、日常で起こる交通マナーの部分については、地域でもう少し力を入れて広報した方がいいかなと思う。	渡辺委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 くらしの安全・安心部会）

ご意見・アドバイス等		委員名
自転車マナー 向上に向けて	自転車マナー講習を受けた人にステッカーのようなものを自転車に貼ってもらう。自転車マナーについての意思表示として貼ってもらう。「私は交通ルールを守ります」というようなステッカーを自転車に貼ってもらう。特に小・中学生が自転車に乗るときにステッカーを見ると、「これから気をつけよう」という気になって、だいぶ変わっていくのではないか。	渡辺委員 安藤委員
	自転車について、大きな交差点だと必ず止まっているが、信号のない狭くて人通りの多い交差点で飛ばしている。交差点に入る手前に、でこぼこのブロックを敷き詰めてはどうか。人が歩くのには支障ない程度で、自転車に乗っているとガタガタとするようなもの。そこを通るとスピードを緩めるので、人との接触は少なくなってくるかなと思う。もう一つ、立体に見えるだまし絵が道路に描かれていると「何か盛り上がって」と思ってスピードを緩めるので、こういうものも利用したらいいのではないか。 自転車マナーは警察の方に話をしてもらうのが一番いい。例えば、運転免許の更新時の講習の際、自動車以外にも、自転車のマナーについてパンフレットを渡したり、説明をするはどうか。	玉井委員
	年に2回、春と秋の全国交通安全運動で、街頭指導という形で1時間ほど小学校の周りに立ってティッシュを配布しているが、交通のマナーがあまり良くない人も多く、小さな信号であれば無視して通過していくという場合もあるが、防犯の腕章をして立っていると、気を遣って止まってくれる人もいる。ただ、違反を見つけて私たちが注意することは立場上なかなか難しく、何の権限もないのに、警察と一緒に何かをしない限りは難しいなというのが実感である。	田村委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 くらしの安全・安心部会）

その他の主なご意見・ご質問等		委員名	区の考え方、対応	担当課
AI音声認識ツールについて	「AI音声認識ツールを活用した区役所窓口サービス向上事業（モデル事業）」で、多言語翻訳のディスプレイを置かれてるとのことだが、例えばディスプレイが使えない状況ではどのような方法で対応されているのか。	中村（一）委員	<p>まずはこの4月に「ポケトーク」という手のひらサイズの翻訳ツールが大阪市で配布されました。日本語で話した言葉が相手方の言語に変わり、また、相手方の言語で話された言葉が日本語で読めるというようなツールで、窓口のご案内、申請書記載のご案内に活用しています。こちらは各課の窓口にも配備しています。</p> <p>多言語翻訳付き字幕表示システムの方は7月から導入しており、ディスプレイタイプのものは、1階の住民情報のマイナンバーの窓口、2階の福祉サービスの窓口、4階の保険年金の窓口に設置しています。また、企画総務課ではタブレットタイプ（持ち運び用モバイルタイプ）のものを用意しているので、例えば会議室で外国籍の方の対応をするときなどに活用しています。</p> <p>また、12月には区役所1階正面玄関を入ってすぐのところにAIアバターの庁内案内の機器を導入しました。8言語で対応しておりますので、言語を選んでいただきましたら、その言語で表示できるようになっております。こちらは、言葉でのご質問にも8言語で対応しております。</p> <p>その他、防災用タブレットに翻訳アプリを入れ、避難所における外国人対応に備えています。</p>	企画総務課
	防災の観点から、各避難所、もしくは小学校の多目的室に50インチぐらいのモニターが1台ずつあると思うのだが、災害が発生したときに、区役所に本部が設営されたら、区役所からのいろいろな情報をモニターに飛ばす。そうすると、英語、韓国語、中国語、あとベトナム語とかの4、5か国語ぐらいに翻訳してディスプレイに出てくるといったことをやってもらいたい。マンパワーには限界があり、機器や技術で補えるものがあるなら、どんどん取り入れることを考えてほしい。	森口委員	<p>実際に災害が起こったら区役所の職員も避難所に駆けつけることになっており、そのときにタブレットも持っていくということになっているのですが、そのタブレットの中には、多言語での翻訳アプリが入っており、それを活用いただけるかなと思っています。</p> <p>災害のときに大きいモニターがあったら掲示板の代わりにもなると思いました。電源をどうするのかとか、またタブレットを繋いだら大きく見せることもできるなどと、予算の問題もありますので、現実的にどういう形ができるのかは考えていかないといけませんが、非常に有効な内容かなと思いました。</p>	地域まちづくり課
交通ルールの説明会について	今度の交通ルールの概要について、地域の会館で警察や行政から説明会などはいつ頃からされるのか。	長谷川委員	今まで自転車に対しては簡易な罰金のような制度はありませんでしたが、4月から青切符制度という形で始まります。これに関しては、区の広報紙に掲載して皆さんにお知らせしようと思っています。各地域の会館での説明会については、警察も含めて今どのようなことを計画しているのか具体的には聞いていない状況ですが、お掛けいただきましたら、区としてもご説明させていただきます。	地域まちづくり課

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 まちの未来部会）

意見交換のテーマ（区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと）	
EXPOいくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業で実施した、地域のよき商いを守り育てる取組である「バイローカルの日」を来年度以降も地域住民が主体となって継続していくにあたり、この取組をより多くの地域の人々に知ってもらったり、地域一体となって盛り上げていくには、どのようなアイデアが考えられるか。	

ご意見・アドバイス等		委員名
バイローカルの日について	うちの地域では「春の桜まつり」、「夏の盆踊り」、「餅つき」といった3大イベントに加え、イルミネーションをやっている。うちほど盛り上がっている地域はないのではないかというぐらい、どこにも負けないようなことをやっているつもりである。まちづくり協議会のメンバーは高齢で、人数も少ないなかやっているということがすごいことなので、若い人がいる地域だったら、それなりにできると思う。 例えば、バイローカルのお店マップのようなパンフレットがあって、ちょっとずつ紹介しながら、1年ぐらいで全部のお店が紹介できるというようなものがあればいいのではないか。	平島委員
	生野区を4つに分けた北東エリアで「バイローカルの日」に携わった。小路地域に昔からあるお店、私が小学校の頃からずっとあるお店や、生まれる前からあるお店に来ていただけたらなという思いもあり、全部で19店舗お呼びして、清見原神社さんでマルシェという形でさせていただいた。「地域にこんなお店があったんだ」とか、懐かしさだったり、改めてその地域の良さがわかったりっていうのを実感できたイベントだったと思う。一番嬉しかったのは、「バイローカルの日」が終わってから、マップの載ったバイローカルのパンフレットを見て実際にお店に足を運んでくださった方が結構いらっしゃったこと。そういうお店を知ってもらうのが、このバイローカルの活動だと思う。 今年は区役所の事業としてやったが、来年度からは自分たちでどのようにお金を出してやっていくのか、また誰がやるのかという問題もある。まちづくり協議会と連携したり、地域それぞれにある町会と連携してやることが一番いいのかなと思う。	松崎委員
	持続可能にするには世代交代が必要だと思う。地域でのイベントや活動においては、今ご年配の方がものすごく頑張っていらっしゃるが、若い人たちがなかなか入ってこないというのか、関心がないのか、きっかけがないのか、いろいろな面で世代交代がスムーズにいっていないのを感じており、お年寄りだけでも駄目だし、若い人たちでだけでも駄目だと思う。上から下までまんべんなくあって、順繰りにスムーズな世代交代がなされるのが理想的だと思うが、それがなかなかできない中で、とにかく各町会に少しでも若い人たちに入ってきたくようにして、行事に参加したときには、町会関係なくどの町会も若い人たちには熱いエールを送るといふか、「一緒にやろう」という形にしている。これを地道にコツコツと続けるしかないのかなと思って取り組んでいるところである。	須郷委員
	こういうバイローカルの取組をするのなら、もっとまちづくり協議会や地域に最初から関わってもらって一緒にできる行事を応援してもらうといいと思う。地域には行事がいっぱいあるので、そこに上手にマッチングできたらいいのではないか。「自分たちが楽しかったらしいやん」とか「人が集まつたらいいやん」という感じでみんなそれぞれで動いているようだが、地域の行事があるのだから、そこで一緒にするとか、形をちゃんと作った上で「バイローカルの日」を開催できなかったのかなというのを思う。正直、このイベントのことも私は全然知らなかったので、「わかってたら行ったのに」みたいな部分もあるし、せっかくこんなパンフレットがあるのに、関わったお店にしかないのか、どこに置いているのか分からぬ。どういった周知の仕方をしていくのが伝わりやすいのかというのを今後の課題かと思う。	中村(寛)委員
	地域で町会長をやらせてもらったが、やってみると、全てがややこしい。まちづくり協議会や町会長会議などいろいろあって、もうその組織さえ理解できない。高齢化・少子化になってきた中で、昔のこの大きな組織がありすぎるとややこしい。「バイローカルの日」について、やろうということ自体はすごく良いことだと思うが、現状のキャパに合った組織を根本的に見直さないと、もっとややこしく、やることも多すぎて、若い子は入ってこない。わかりやすいコンパクトな運営にしていかなければいけないのではないかと思う。エリアごとに別に線を引かないでいいと思うし、あちこちでいろんなことをやっているようだが、来年は一発大イベントを全員でやろうみたいなことで全体を盛り上げた方がシンプルでいいんじゃないかなと思う。	大久保委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 こどもの未来部会）

意見交換のテーマ（区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと）
生野区では様々な子育て支援事業に取り組んでいるが、各地域において子育て中の方やこども達が集まり、地域と繋がるにはどのような工夫が必要か。

ご意見・アドバイス等	委員名	
子育て中の方や こども達が地域と 繋がるには	現在あまり活動できていない状態だが、「はぐくみ」という活動があり、民生委員なども全部含めて地域の方が全員で話し合える場所だった。それをもう一度きちんと作って、地域のおじいちゃん・おばあちゃんも子どもに関われるような形を再編できたらと思う。	井筒委員
	学校を統廃合すると子どもたちの顔が見えなくなる。地域の餅つきも、子どもたちが喜ぶ顔を見るために皆で協力し合おうということでやってきているが、どんどん顔が見えなくなっていて、これからどうしていくのか考えている。また、外国人が多くなっているので、外国人の方たちも地域に入ってきててくれるような環境づくりすればいいのではないかということで、夏祭りなどで、例えば中国籍の人がいるんだったら、「水餃子」といった感じのものも出せるように協力し合おうよと話している。通訳の人も一緒に入ってもらえるとコミュニケーションができたりするし、そういう予算的なところを行政にバックアップしてもらいたい。	浮田委員
	20年ぐらい前、地区対抗でドッジボール大会をしていた。優勝チームには何か賞をあげるとかすると子どもたちはたくさん来る。今は少子化で、そういう仕組みがものすごく難しく、また子供会も潰れていっているが、子どもが減ったのなら二つ三つを合併してチームを組んだらいい。そういう仕組み作りをもう1回見直して、ぜひとも各地域の子供会を充実させる予算的、人的なフォローを区と地域が一体となってやるべきかなと思っている。また、ひとり親世帯が増えているので、その子どもたちに寄り添おうと思ったら、例えば子どもの見守り強化事業を充実させていかないといけない。その子どもたちの家庭に直接コミットメントできるような事業を区と地域が連携してやっていくことが必要なのではないかと思う。	安委員
	言葉が通じなかったり、コミュニケーションができなかつたらいろいろなことができなくなる。入国したばかりの子どもたちに母語支援として何かプログラムをしたら、その子どもたちから地域や日本のいろいろなルールとか、これからの学校生活のルールとかの情報が親まで届いたりすると思う。保護者も日本語を学んで、コミュニケーションをとりたいと思っている。仲良くしたいと思っている。医療通訳や教育通訳のほか、個人的に教室を開いてボランティアで日本語を教えている。ひらがな、カタカナを教えたり、ルールや学校の宿題サポートや高校受験のこと、入試のこと、保育園に入る前の資料の書き方の手伝いなど、外国籍の人がこの街をもっと好きになるように、仲良くなれるようにと思ってできることをやっている。	マヤ委員
	これまで過ごしてきた時代と違って、1人1人に即した対応、教育をしていかないといけない時代だなど感じている。学校統廃合などでいろんな場所が失われてしまったかもしれないが、その場所をまた子どもたちの居場所、地域との関係づくりに活かしていくのが我々大人の役目だと思う。	西村委員

主なご意見等と区の考え方、対応（令和7年度 第2回生野区区政会議 こどもの未来部会）

その他の主なご意見・ご質問等		委員名	区の考え方、対応	担当課
生涯学習の場について	学校統合された場合、生涯学習ルームの新しい講座は統合された学校のみ設置でき、学校跡地施設では設置できないと聞いている。学校が近くになると、高齢者や子ども達が生涯学習ルームに通うことが難しくなる。学校跡地の事業者に柔軟に対応いただいたらしく、また地域の会館などにも生涯学習の場が広がれば、地域と繋がる場となっていくのではないかと思う。	足立委員	生涯学習ルームは小学校区ごとに運営委員会を設置し、基本的に学校施設で活動いただいておりますが、再編後の学校跡地についても民間による活用との調整を図った上で可能な範囲で活動場所として活用しています。講座は施設の本来の使用に支障を及ぼさない範囲で実施しており、施設の本来の使用者（学校施設は校長、学校跡地は活用事業者）との協議・調整を行う必要がありますが、いただいたご意見も踏まえながら今後もできる限り調整対応してまいりたいと思います。	
学校再編に関する調査について	地域と学校と保護者は三位一体であるべきと思うが、学校再編後は学校で各地域への配慮がかなり必要であったり、地域との連携が難しくなっていたり、また小中一貫校としての難しさもあるなど、さまざまな課題があるようにも聞いている。行政は学校再編の結果について調査を積極的に丁寧に行うべきである。	安委員	学校再編の検証は、再編前後での学校の運営や子どもの教育環境の観点から、現在作業を教育委員会事務局において進めています。区役所では、これまで各学校と相談し、教育委員会事務局とも連携しながら、再編後の学校がより良い形で運営され、子ども達の教育環境がより充実したものとなるように支援を行ってきているところですが、検証も踏まえながら、今後も学校の適正配置や支援に取り組んでまいりたいと考えています。	地域まちづくり課
日本語支援 日本語教育について	外国籍の子どもが増えてきているが、コミュニケーションに関しては日本人の子どもの方がタブレットは使えるけれども、ちゃんと言葉で伝えられないという状況になっているので、外国籍の子どもも含め、全ての子どもに対して、昔ながらの会話力を持つことにもう少し力を入れていただきたい。外国籍の子どもには個別にしっかりと教える機会がある一方で、日本人の子どもにはそのような機会がなく「話せて当たり前」「言えて当たり前」となっているように思う。	井筒委員	外国から来られて日本語が全くわからない方への日本語指導の支援も教育委員会と区で取組を行なっていますが、日本人の子どもの国語力、コミュニケーション力という点も重要と考えています。各学校では、多文化共生の教育において、日本人の子どもたちの外国の文化などに対する理解とともに、日本語や日本の文化に対する理解なども並行して行われていますが、いただいた意見も教育委員会と共有し、対応してまいりたいと思います。	
妊産婦ケアについて	令和8年度の予算を見ると妊産婦ケアに関して500万円ぐらいアップしている。具体的にどういった形でケアをするのか、つまり人数的な補完をどのようにされるのか、助産師会とどのように連携しているのか具体的に聞きたい。	安委員	本年3月の市会で助産師の常時配置という点について要請がありました。また一方で、国のことども家庭庁で「妊婦等包括相談支援事業」いうものが新設され、令和8年度から予算措置が可能になりました。国が予算の2分の1を負担して、大阪府が4分の1、大阪市が4分の1を負担するという枠組みになりますが、新たな予算が創設されたということなので、議論経過等を踏まえて、会計年度任用職員になるかと思いますが、通年雇用で助産師さんを1名採用できるように、令和8年度から予算計上をさせていただいているところです。500万円程度の予算増加はその経費です。	保健福祉課